



式典の様子（ミンダナオ島）

ミンダナオ島で平和を広める「平和の学校」

ミンダナオ島で長年紛争の影響を受けてきたピキット町の2つの高校において、3教室の「平和の学校」が完成し、3月15日に教育省への引き渡し式典を開催しました。当日は、町や教育省の担当官、生徒・教師・PTA役員等の学校関係者、モロイスラム解放戦線（MILF）、国際停戦監視団（IMT）等、約350名が式典に参加し、笑顔に溢れた1日となりました。治安の問題で何度も建設を中断せざるを得ませんでしたが、無事完成して、安心しました。

この「平和の学校」は、教科を学習する場として存在するのみならず、平和の価値観を学ぶ場・平和を促進する場として機能しています。例えば、学校の教室には、生徒同士が対話を通して揉め事を解決できるようにするため「平和テーブル」が設置されるとともに、学校敷地内には、生徒や教師、保護者が協力して植物を育てることで、平和に関連した価値観を学ぶ「ピースガーデン」が設置されました。また、教室を建設する過程においても、アイキャンと村役員、学校関係者の間で会議を行い、完成後の学校のイメージを確認した上で、各関係者の役割と責任について話し合い、信頼関係の形成に力を入れました。

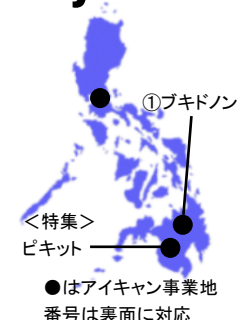
式典当日、PTAの会長が涙を流しながら、「将来を担う我々の子どもが、このような平和な環境で学ぶことができるなんて夢のようです。地域の人々で協力して、この学校を『平和の学校』として定着させていきたいです。」と語っていたのが印象的でした。また、教師の一人は、「平和の学校とは、単に平和の重要性を学ぶことができるだけでなく、例えば、授業の中でグループワークを取り入れて、お互いに協力し合うこと、お互いの意見を尊重し合うことの重要性も学ぶことができる学校」と語り、アイキャンの教師対象の平和教育研修で学んだことを自主的に多くの人々に共有する姿が見られました。私からも、「平和は、自分自身から始まる。『平和の学校』で勉強する皆さんが、ミンダナオ島の平和を広めていく推進役になることができる」と信じている」とスピーチで伝えました。

4月からは、よりミンダナオの広範囲の学校に平和教育を広めていく活動が開始します。私を始め、多くのアイキャンスタッフは、この日の子どもたちや地域住民の笑顔と平和への自信に勇気付けられ、また新たなステージへと登っていきたいと思います。



ICAN マニラ事務所
福田浩之（ふくたひろゆき）
～プロフィール～
フィリピン大学修士課程、ICAN マニラ事務所インターンを経て、2013年4月に入職。社会福祉士。

Project Site



認定NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 TEL/FAX: 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

<特集>

ピキット

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今月はこちらの2つをご紹介します。

①先住民の子どもたち 3月13日／ブキドノン州(フィリピン)

山奥の先住民の村に新しい校舎が完成



ミンダナオの山奥の先住民の村で、新しい校舎が完成し、引き渡し式典に、300名以上が参加しました。住民からは、「このような山の上の地域に、こんなに立派な学校が建つと思わなかった。感動した。」といった声が、子どもたちからは、「美しい学校ができてとても嬉しいです。勉強をもっと頑張りたいという気持ちになりました。学校を大切にしたいと思います。」といった声が上がりました。

②紛争の影響を受けた子どもたち 3月22日／東京

「忘れられた紛争地」からの声を伝える



ジャパンプラットフォーム主催のイベント「イエメン最新レポート：紛争激化から2年、イエメン人が語る人道危機」において、日本事務局の職員が、ジブチに逃れたイエメン難民の方のインタビュー動画を用い、活動報告を行いました。来場者からは、「イエメンに関する報道はあまりなく、現地の方の話を聞けるのは本当に貴重。現地の方の声を様子をこれからも伝えてほしい。」などの言葉を頂きました。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今月はこちらの2つをご紹介します。

国際理解教育事業 3月8日／愛知

小学生が路上の子どもに「できること」を実践

知多市立旭北小学校の6年生102名に、路上の子どもたちについての講演を行いました。「路上の子どもたちの大変な生活のことを思うと、僕が大変だと思うことなんてどうってことないと思いました。その子たちを少しでも助けるために何かしたいなと強く思いました。」などの感想がありました。当日頂いた書き損じハガキのご寄付に加え、後日集めた古本などのご寄付も日本事務局に届きました。



スタディツアー・海外研修事業 3月6～12日／マニラ

スーパーグローバルハイスクールの研修3年目

長野県上田高校の1年生19名が、フィリピンでの研修に参加し、路上やごみ処分場周辺地域の人々と交流したり、高齢者福祉施設や病院で話を聞く中で、貧困、幸せ、命について日々考え、互いの思いを共有しました。参加者からは、「高校生の時期に沢山のひとと出会い、いい経験になった」「誰もが夢を追える世界になるよう、私も自分にできることを見つけない。」などの感想がありました。



今月の Announcement

古本・CD・DVDがフィリピンやイエメンの活動に役立ちます！

ご不要になった古本やCD、DVD、ゲームソフト等がありましたら、ぜひアイキャンにご連絡ください。ブックオフオンラインを通して、買取額がアイキャンへのご寄付となります。30点以上から無料で集荷可能です！詳細はお問い合わせください。

今月の Media

3月10日 NIKKEI ASIAN REVIEW フェアトレード生産者 SPNP 団体 3月22日 NHK オンライン イエメンシンポジウム
3月12日 Djibouti Inter-Agency update on the Yemen situation #51 ジブチの難民キャンプでの活動

今月の ICAN 人

◎渡邊さん、帰国後も周りの方に広めてくださり、ありがとうございます！

マンスリーパートナー 渡邊眞夢さん 「共感の輪を広げ、貢献したい」

インタビュー：4月6日

私は、大学の授業でアイキャン職員の講演を聴き、世界の格差社会の現実には驚きました。また、ゼミの先輩方が毎年スタディツアーに参加しており、話を聞いてとても刺激を受け、私も行きたい、見たいと思い、昨年9月に参加しました。

ツアーでは、日本と異なる環境にショックを受けました。道端のゴミの多さや汚れた川、その川の水を浴びたり飲んだりする人、ただぼんやり座る子どもと、その前を当たり前のように通り過ぎる大人たち、ゴミ山の匂いなど、現実に対し五感の全てが受け止めきれませんでした。ゴミ山で働くお母さんや路上の子どもたちに少しでも貢献できるようにと、帰国後友達に語ったり、グローバルフェスタでアイキャンのブースを手伝ったりしました。そしてアルバイトを頑張り、貯めたお金で3月のボランティアツアーに参加しました。

今回は、「子どもの家」での日本食の調理やカウンセリング用コテージの土台作りなどをしつつ、入所の子どもたちと交流しました。両親の帰りを待つが帰ってこない、幼い頃から完全孤児…、目の前の元気いっぱい優しい子どもたちの過去は、私たち訪問者の想像をはるかに超え、涙が止まりませんでした。帰国後、早速、大学内で、ツアーの内容をまとめた報告書の作成や、パワーポイントと写真を使った発表を行いました。引き続きより多くの人に私の想いや子どもたちの事を伝え、共感の輪を広げることで、「できること」を考え、継続的に活動する人を増やしたいです。



【編集者から一言】 「子どもの家」の子どもたちの声をまとめたブックレットを作成しました。HPより閲覧いただけます。 <http://www.ican.or.jp>